



巻頭エッセイ

はこだて旅便り

「今日もぷらぷら」

114

「カックウのお友達は

縄文時代のだっこちゃん？」



文月 齊 (ふみつき さい)
埼玉県出身。
人と街、自然と文化を題材に、
みちくさばかりの旅を続ける
エッセイスト。
函館、埼玉、大阪を拠点に
旅を満喫中。

前略、変わりはないか？
待ちに待った7月がやってきたね。え、東京オリンピックのことか？いや、もちろんそれもあるけど、僕が待っていたのは「縄文」。ほら、前にも何度か話したことがあるけど、ユネスコの世界文化遺産登録を目指した「北海道・北東北の縄文遺跡群」が、今月開かれる世界遺産委員会で世界文化遺産に登録されることになったんだよ。遺跡群という呼び方からも分かるように、今回の登録対象は複数の遺跡で構成されていて、北は北海道千歳市のキウス周堤墓群から、南は秋田県北秋田市の伊勢堂岱遺跡、岩手県一戸町の御所野遺跡まで17の遺跡が広範囲に分布しているんだ。以前君と見に行った函館市の大船遺跡と垣ノ島遺跡も含まれていて、これまであまり縄文に関心のなかった函館市民もさすがに興味を持ち始めようだね。

かくいう僕もその一人。17の遺跡のうち訪れたことのある遺跡なんて数えるほど。せっかく遺跡群のほぼ中心にいるのにこれほもったいない。ということでも、未訪問の遺跡を訪れてみることにした。今回向った先は青森県八戸市の是川石器時代遺跡。ここには今年で開館10周年を迎える是川縄文館が隣接していて、縄文好きな友人に前々から薦められていた場所なんだ。ほら、北海道新幹線が開業して今年で5周年でしょ。5年、10年と記念年つながりで縁起がいいから安易に決めてしまったけど、これが大正解だったよ。

新函館北斗駅から八戸駅まで新幹線で1時間半、在来線とバスの時間を入れても函館駅から是川縄文館までは3時間。いやあ、あらためて新幹線の速さを実感。だつてそうでしょ、ついさっきまで自宅で朝ごはんを食べていたのに、たった3時間で青森県の縄文遺跡だからね。なんだかタイムマシンにでも乗った気分だよ。しかも、是川縄文館で迎えてくれたのは、タイムトラベラーのような風貌の土偶たち。明るさを抑えた館内はさしずめタイムトンネルといった感じだね。トンネルの最後には国宝に指定されている「合掌土偶」が座っていて、時間と空間を越えて会いに来ましたって感覚だったな。

ところでこの合掌土偶だけど、どうも初めて会ったという気がしないんだ。それもそのはず、以前君と行った函館の縄文文化交流センターに展示されている中空土偶の「カックウ」に良く似ているんだよ。合掌土偶はいわゆる「体育座り」の姿勢で両手をひざの上で組み、脛（すね）なら昔はやったビニール人形のダッコちゃん。直立姿勢のカックウとは一見するとまったく別ものなんだけど、よく見ると顔のつくりや、身体に施された模様が似ている。新幹線が走る現代ならいざ知らず、3000年以上も昔にこの里山の集落と函館集落との間に交流があったかどうかは分からないけど、ほんとよく似ているよ。

それで思い出したんだけど、何年前かに函館市の博物館の企画展で、函館山が昔は海に浮かぶ島だったという話をしていた。今よりも温暖な気候で、海面もずっと高い位置にあったとか。その当時の海岸線を再現した函館の地図を見せられたけど、市街地は海に沈んで確かに函館は陸から離れてた。興味深いのは、その古代の地図に現在発見された縄文遺跡を落とさ込んでいくと、見事に海岸線に並ぶんだよ。最近では便利な世の中になって、現在の地図を表示して海面の高さを自由に換えられるインターネットのサービスがあるんだ。そこでさっそく函館山が海に浮かぶ島だった時代に設定し、是川エリアの地図を確認してみたところドンぴしゃり！すげそばを流れる新井田川に沿って太平洋側から深い入り江になっていったんだ。是川周辺はかつては海岸線だったんだね。カックウの生まれた里までは200kmくらいありそうだけど、陸路を行くよりも楽だったんじゃないかな。あれだけ見事な土器を作る人たちだから、きっと食へるの探求も熱心だったかもね。イカやサバ、ウニなど、八戸自慢の海の幸を食べながらの旅は意外と楽しかったかも。もちろん僕も現代の海辺の町で、玉子で閉じたいに井なんて新たな世界を体験してきたよ。縄文人もびっくりの美味しさ。今度、縄文とセットで案内するよ。それじゃあまた。



法人会は会社経営の効率化のためにe-Taxの普及を支援しています。

さらに詳しくはWEBへ

イータックス

検索